

歴史認識問題研究会第2回シンポジウム

9.26緊急シンポジウム—ユネスコ慰安婦登録を許すな

平成29年9月26日 於文京区民会館

オープニング・スピーチ 櫻井 よしこ (ジャーナリスト)

皆さん、こんにちは。

どのぐらいの方がいらっしゃるのかなあとと思ってこちらに参ってみました。沢山の方がいらして下さいました。本当に有難うございます。(拍手)

10月の下旬に、八か国の地域の方々が登録申請する慰安婦問題についての結論が出されるということです。今、私たちはこれを絶対に阻止しなければいけないという局面に立っています。この歴史認識問題を振り返ってみますと、我国の基本、国家としての在り方が問われているわけですね。歴史問題についての、中国や韓国の日本に対する攻め方を見ますと、国家戦略でやってきているわけです。国が大変な労力とお金と人材をつぎこんで、国家の対日政策の柱の一つとして、日本を貶める運動を展開してきています。

例えば、慰安婦の問題であっても徴用工の問題であっても、彼らがいかに長い年月をかけていろんなことを調べて、でたらめなものも含めて史料を集めているか。それを見ると、敵ながらあっぱれといえますか、執念深くやっていることがわかります。それに対して私たちの国の側は、あまりにも極楽とんぼで、何もやってこなかった。いろんな問題が表面化しても、このことに対して抗議をすることが、例えば日韓関係、例えば日中関係を悪化させてはならないと考える。その度ごとに、今ここで日中関係を悪化させれば、安倍総理と習近平主席の会談が流れてしまう、もしくは実現しないとかですね。もしここで慰安婦の問題で突っ張れば、安倍総理と朴槿恵大統領、アメリカから仲良くしなさいと言われていた最中で、首脳会談が流れてしまうかもしれないなどと、目先のことに注意を奪われて、もっと大事な国としての基本であるとか、中長期的な戦略というものについて思いが及ばない。残念ながらそれが、我国の外務省の姿勢であったというふうに思います。(拍手)

ここで拍手がわくのも、悲しいんですね(笑)。今日本は、歴史の大きな曲がり角に立っていると思うんですね。国際社会を見ても、国の中を見ても、全ての物事が私たちが予想するよりも、はるかに早いスピードで変化しています。国際社会においては、皆様もお感じになっているように、世界の大国であるアメリカがどんどん内向きになってきています。その代りに中国が台頭してしまっただけでなく、中国は台頭したのみならず、中国的な価値観を持って世界を席卷しようとしているわけです。その時に一番彼らにとって目障りな国が、一つ二つあります。その一つは紛れもなく我国です。もう一つはもしかしてインドの存在であるかもしれません。いずれにしても、中国の日本に対する攻め方というのは、日本から取れるだけのものを取る。領土も資源も人々の心も、みんな取ってしまう。

そのためには、日本人の背骨を砕いてしまうことが一番いいですね。私たちの戦う気力、自分に対する信頼、日本という国に対する信頼、そして日本の文明、文化、価値観に対する信頼。そうしたものを喪失させれば、日本人は難なく中国のコントロールの下に入る。そのために何をするのか。一番いいのはこの歴史問題で日本がいかに悪いことをしたかということ、日本人自身に見せつけることなんです。そのために彼らは、捏造を続けています。

私たちは慰安婦問題にしても、彼らが言う南京大虐殺一大虐殺などはなかったんですけども一南京大虐殺問題にしても、そして今彼らが持ち出している徴用工問題にしても、中国の言うこと、韓国の言うことには根拠がないと、今この会場にいらっしゃる皆さん方は解っています。私たちも解っている。だから一生懸命戦っていますけれども、中国のやり方を見ていると、南京で30万人殺した。慰安婦は朝鮮半島から20万人、中国から20万人、40万人のうち、四分の三を殺した。南京で30万人、慰安婦で30万人。そして性奴隷だった。お金も払わなかった。徴用工だってそうだ。奴隷労働させたんだ。このようにいろんなことを言いますね。それに見合うような文書、史料を次から次と造っている訳ですね。慰安婦問題については、高橋史朗先生が非常に詳しくいらっしゃいますけれども、蘇智良という学者などを中心に本を書かせて、これをアメリカのオクスフォード出版から出しているんですね。アメリカの権威ある出版社の名前を使って、大変なでたらめ本に権威づけをしています。第一章からすべての章にわたって、本当にでたらめだということが、読んでみれば解ります。しかし、私たち以外の第三国のアメリカ、ヨーロッパの方々には解らない。

そして皆さん、30年後、50年後を考えてみましょう。私たちは皆、死んでます。次の世代、もしくはそのまた次の世代の時代になっています。そうした時に、歴史を振り返る時、人々は何によって歴史を学ぼうとするか。いろんな資料です。書かれた史料です。そこに中国が嘘を並べて書いて、日本の研究者たちがこうしたものを助けて、いろんな資料を提供して、でたらめな本や資料を書かせる。文献としてこうした著作が残っていれば、それが歴史になるんです。

私たちが今言っているようなことは、よほどきちんと資料としてまとめて、発表していかないと、世界の人々の目に触れない。目に触れないということは、私たちの言う歴史の真実は、なかったことにされてしまう。だから今、このユネスコの登録を許してはならない。もう私たちは南京事件のことで、登録を許してしまいました。慰安婦を今、彼らはやっています。この次に来るのは徴用工です。こうやって、日本を貶める国際戦略が、中国そして韓国の国家の力によつて、なされようとしている。これをなんとしても許してはならない訳です。政府があまり激しい声を出さないのが現実なんですけれども、政府に先んじて、民間の私たちが大きな声を出して、止めていかなければならないと思います。中国が今、世界の覇権を取ろうとしている。その中国が今、日本を徹底的に貶める、その材料にしようとしているのが、ユネスコにおける登録なんです。これは私たちが全力で阻止するというので、今日はこのセッションを続けてみたいと思います。

私は概論を申し上げて、詳しいお話は、高橋先生、西岡先生にお話をしたいと思います。どうもありがとうございます。(拍手)